

健康増進計画

分野	施策	計画掲載ページ	R7年度 事業計画	R7年度 実施状況	R7年度 課題・評価	R8年度 事業計画	担当課
栄養・食生活	①栄養バランスのよい食生活の推進 ②減塩の促進 ③適正体重を維持するための啓発の推進	P84～86	○健康はつかいち21推進協議会事業 ・朝食コンテスト実施 ・食のアンケート実施 ・健だまっこ部会レシピ作成・配布 ○食生活改善推進員連絡協議会事業 ・こどもの料理教室(廿) ・やさいの日普及啓発(廿) ・健康づくり交流会(廿) ・献血での試食提供(廿) ・JA広報紙掲載による食育推進(全) ・ウオーキングリーダー会交流会(全) ・日本食生活協会からの委託事業(全) ・地域活動栄養士会、広島国際大学、山陽女子短期大学と連携した、あいブラザまつりでの食育啓発(全) ○西部保健所、大竹市と連携したベジチェック集計表を活用した野菜摂取に関する啓発 ○健診結果説明会での栄養相談の実施 ○ハートビクス(健康教室)での食育と運動を結びつけた講座と実技	○健康はつかいち21推進協議会事業 ・朝食コンテスト実施(応募数223作品)(2年に1回開催) ・朝食コンテスト入賞作品を用いた啓発(あいプラサ・市民センター・図書館・支所・市内小学校・商業施設での展示・ホームページ及びLINE掲載) ・食のアンケート実施(1,053件回収) ・健だまっこ部会レシピ作成 ○食生活改善推進員連絡協議会事業 ・こどもの料理教室(7/28、18人参加)(廿) ・やさいの日普及啓発(8/31、200人)(廿) ・健康づくり交流会(10/27、20人)(廿) ・献血での試食提供(10/17、50人・1/16、50人)(廿) ・JA広報紙掲載による食育推進((年回6回)全) ・ウオーキングリーダー会交流会(11/15、34人)(全) ・日本食生活協会委託事業(シニアカフェを佐伯支部・骨太クッキングを吉和支部で計3回実施)(全) ・地域活動栄養士会、広島国際大学、山陽女子短期大学と連携した、あいブラザまつり(11/2、体験型栄養相談、ベジチェック測定、バランスのよい食事について動画上映延べ152人)(全) ・伝達講習会(集会735回、人数5,518人)(全) ○食生活改善推進員研修会(各地区年間4回・計12回)(全) ○西部保健所、大竹市と連携したベジチェック集計表を活用した野菜摂取に関する啓発(261人) ○健診結果説明会での栄養相談の実施(合計5回、計79名参加) ○ハートビクス(健康教室)での食育と運動を結びつけた講座と実技(合計6回、計延べ人数192名、実人数40名)	○朝食コンテストの応募者全員に実施したアンケート結果、朝食摂取率は横ばいで、朝食摂取の重要性を普及する継続した取組が必要である。 (朝食摂取率小学校5.6年生 R5 76% → R7 76%) また、料理を作るとき手伝うことがあるかの問いには、小学校5年生では63%から56%と減少したが、今後、料理を手伝う子どもが増えることを期待する。参加応募数は、前回と比べ397作品から223作品と減少。教育委員会と更に連携し、学校栄養教諭や担当教諭への声かけなど、周知・依頼に取り組む必要がある。初の取組として、市内学校栄養教諭が『学校栄養士特別賞』を1作品選定した。今後も、「給食」を用いた「朝食の大切さ」の普及・啓発を検討していく。大塚製薬との共催により、市内商業施設での入賞作品一覧展示を実施し、より多くの市民に、朝食コンテストの実施や朝食の重要性を周知できた。 ○R7年度に実施した廿日市市「食」に関するアンケートの結果、野菜の日の認知度が増加した。引き続き、やさいの日(8月31日)の周知やベジチェック測定会を保健事業等で実施し、子どもから高齢者まで野菜摂取の重要性を分かりやすく、普及啓発していく。(やさいの日を知っている R6 28%→ R7 36%) ○地域単位で栄養・食生活対策を広める食生活改善推進員の会員の増加に向けた取組が必要。市の課題を廿日市、佐伯、吉和3支部で共有し、さらなる事業の展開が必要。また、宮島での継続した食育活動の支援や大野地域での健康おおの21等と連携した食育の推進を図る必要がある。	○健康はつかいち21推進協議会事業 ・食のアンケート実施 ・健だまっこ部会作成のレシピ配布 ○食生活改善推進員連絡協議会事業 ・こどもの料理教室(廿) ・やさいの日普及啓発(廿) ・健康づくり交流会(廿) ・献血での試食提供(廿) ・JA広報紙掲載による食育推進(全) ・ウオーキングリーダー会交流会(全) ・日本食生活協会からの委託事業(全) ・地域活動栄養士会と連携したあいブラザまつりでの食育啓発(全) ○伝達講習会(全) ○食生活改善推進員研修会 ○西部保健所、大竹市と連携したベジチェック集計表を活用した野菜摂取に関する啓発 ○健診結果説明会での栄養相談の実施	健康推進課
			○10か月面談・1歳6か月児健診・3歳6か月児健診・5歳児健診(相談)・育児相談・離乳食講座での栄養講座や個別相談の実施	○10か月面談(全域33回)・1歳6か月児健診(全域 45回)・3歳6か月児健診(全域45回)にて、栄養士による栄養ミニ講座と個別相談を実施した。5歳児健診(全域40回)では、必要な対象者に食事に関する保健指導を実施した。 ○育児相談(全域37回)にて、栄養士による個別相談を実施した。 ○離乳食講座(全域15回)を実施した。	○栄養士による乳幼児期の栄養についてを栄養ミニ講座で、各家庭での食事の悩みにについては個別相談で、わかりやすいように実施できた。 ○離乳食講座では、離乳食の作り方について動画等を用いてわかりやすいように実施できた。今後も成長に合わせた保健指導と栄養指導を実施する必要がある。	○10か月面談・1歳6か月児健診・3歳6か月児健診・5歳児健診(相談)・育児相談・離乳食講座での栄養講座や個別相談の実施	子育て応援室
			○栄養バランスのよい献立を作成し、保育園給食を提供 ○毎月19日の食育の日、給食展示食、給食だより、給食試食会において、食に関する情報を園児と保護者に発信 ○肥満とやせに該当する者の状況調査の実施	○栄養バランスのよい献立を作成し、保育園給食を提供 ・各保育園の給と栄養目標量を参考に、栄養バランスや嗜好に配慮した献立作成ができている ○毎月19日の食育の日、給食展示食、給食だより、給食試食会において、食に関する情報を園児と保護者に発信 ・食育の実施や展示食、食に関するおたより、給食試食会等、各施設に合わせた内容を実施できている ○肥満とやせに該当する者の状況調査の実施 ・状況調査を実施した	○日本人の食事摂取基準が2020年版から2025年版に変更され、その基準に準じた栄養管理ができているかを監査等で確認した。 ○各施設の特性や地域性に合わせた食育の実施ができていることを確認した。 ○肥満とやせの該当者を把握したが、具体的な取り組みなどに繋げることが出来なかったため、次年度は結果の報告を分析し、該当園児の身長体重曲線の追跡調査や、園での提供量や家庭での様子を聞き取り、助言する等を栄養士が主体となって実施していく。	○栄養バランスのよい献立を作成し、保育園給食を提供 ○毎月19日の食育の日に合わせた食育の実施、給食展示食等において、食に関する情報を園児と保護者に発信 ○肥満とやせに該当する者の状況調査の実施	こども課
			○小中学校成長曲線委員会の実施 ・医師による受受診者の判定 ・児童生徒の成長に係わる課題や疾病への対応の協議 ・肥満改善に取り組むためのパンフレット配付 ○学校給食実施基準に基づく適切な学校給食の実施 ○各教科等や給食の時間における食に関する指導の充実 ・掲示物や資料の配付 ・給食時間における献立メッセージの放送や食育動画の配信 ・栄養教諭による食育指導の実施 ○学校給食を通した児童生徒・保護者への食育普及啓発 ・特別献立を通した取組(和食の基本献立、郷土料理・行事食、ひろしま給食、全国学校給食週間の献立、料理力の献立等)の実施 ・戦後80周年の給食の取組の実施	○小中学校の成長曲線委員会の実施 ・医師による成長曲線判定委員会を実施し、受受診者、経過観察者を判定した。 ・6月28日・1月9日に成長曲線委員会を開催し、児童生徒の成長に係わる課題や疾病への対応の協議を行った。 ・要受診及び経過観察の児童生徒及び保護者に肥満改善に取り組むためのパンフレットを配布した。 ○学校給食実施基準に基づく適切な学校給食の実施 ○各教科等や給食の時間における食に関する指導の実施 ・掲示物や資料の配付 ・給食時間における献立メッセージの放送や食育動画の配信 ・栄養教諭による食育指導の実施 ○学校給食を通した児童生徒・保護者への食育普及啓発 ・特別献立を通した取組(和食の基本献立、郷土料理・行事食、ひろしま給食、全国学校給食週間の献立、料理力の献立等)の実施 ・戦後80周年の給食の取組の実施 ・保護者向け配信ツール(tetoru)によるショクイクマガジンの配信 ・給食の取組紹介動画「はつかいちのおいしいきょうしゅく」の作成、市公式youtube配信 ・給食の取組紹介ショート動画の市公式Instagramでの配信 ・学校給食フェスタの開催 R7テーマ「今こそ伝えたい! 給食の魅力」 ・朝食コンテストへの参画、児童生徒への指導、学校栄養士特別賞の新設・受賞メニュー選定	○小中学校成長曲線委員委員会を実施したことにより、本市の児童生徒の栄養状態の把握ができ、さらに、医師、養護教諭、栄養教諭のそれぞれの観点から取組方法や成果・課題の協議ができた。しかし、肥満改善に顕著な成果が現れず、根気強く継続的なアプローチが大切である。 ○物価高騰により食材の価格が高騰する中でも学校給食実施基準に基づく学校給食の実施を継続するため、令和7年度も食材価格の状況をみて給食費を値上げした。また、11月から新米に切り替わるタイミングで米の急激な価格高騰に対応するため、給食費の支援金額を増額して対応した。引き続き、食材価格の動向に注視するとともに、必要があれば適切な予算措置を行う必要がある。 ○食に関する指導において中心的な役割を担う栄養教諭等の学校給食管理運営業務に係る業務量が多かったことから、廿日市・大野学校給食センターで業務内容及び分担の見直しを行い、必要な人員配置を要求し、食育推進体制の整備を行った。他の地域についても、栄養教諭等がその役割を果たせるよう業務改善に取組む必要がある。 ○さまざまな機会を捉え、学校給食を通した児童生徒・保護者への積極的な情報発信を行うことができたが、評価指標が朝食の喫食率のため、家庭による影響が大きく成果が測りづらい。また、従来は児童生徒への指導が中心だったが、今後は朝食を食べない理由を分析し、保護者への効果的なアプローチの補法を検討していく必要がある。	○小中学校成長曲線委員会の実施 ・医師による受受診者の判定 ・児童生徒の成長に係わる課題や疾病への対応の協議 ・肥満改善に取り組むためのパンフレット配付 ○学校給食実施基準に基づく適切な学校給食の実施 ○各教科等や給食の時間における食に関する指導の充実 ・掲示物や資料の配付 ・給食時間における献立メッセージの放送や食育動画の配信 ・栄養教諭による食育指導の実施 ○学校給食を通した児童生徒・保護者への食育普及啓発 ・特別献立を通した取組(和食の基本献立、郷土料理・行事食、ひろしま給食、全国学校給食週間の献立、料理力の献立等)の実施 ・「おいしい! 広島」農林水産物給食当提供事業への参画 ・学校給食フェスタの開催	学校教育課

分野	施策	計画掲載ページ	R7年度 事業計画	R7年度 実施状況	R7年度 課題・評価	R8年度 事業計画	担当課
栄養・食生活	①栄養バランスのよい食生活の推進 ②減塩の促進 ③適正体重を維持するための啓発の推進	P84～86	○健診結果説明会における個別栄養相談(大) ○高齢者の低栄養予防指導及び健康教育(大) ○健康を守る集いでの啓発活動(大) ○ウオーキング講習会と食の部会コラボ「運動と食」(大) ○食生活改善推進員連絡協議会事業(吉) ・ミニ伝達講習会(交流ウオーキング・認知症カフェ等) ・よしわふれあいフェスタでの試食提供及びやさいの日およびフレイル予防等の普及啓発 ○フレイル予防の指導及び健康教育・訪問等の実施(吉) ○熱中症予防の普及啓発(吉) ○健康はつかいち21佐伯地域会(3食食べよう会)事業(佐) ・幼児教室参加者に対する食育の話し離乳食講座実施 ○食生活改善推進員連絡協議会と事業(佐) ・やさいの日普及啓発 ○高齢者低栄養予防指導及び健康教育の実施(佐) ○健診結果説明会での栄養相談の実施(佐) ○健康はつかいち21推進協議会と事業(宮) ・食の部会にて高齢者への食事提供 ○健康相談・健康チェックデーにて栄養士による栄養相談(宮)	○健診結果説明会における個別栄養相談(大) ・9/11 参加者13人 ・12/18 参加者9人 ○高齢者の低栄養予防指導及び健康教育(大) ・ふれあいサロン 5/16・1/20 参加者39人・76人、 ・まちの保健室 6/13・10/5・12/15 参加者14人・76人・39人 ・体組成測定会&骨密度測定会 6/20・2/13 参加者39人・44人 ・2区お茶の間サロンだんだん 7/5 参加者29人 ・万年青会ふれあい茶会 7/9 参加者32人 ・フレイル予防体操Plus+ 7/18・2/20 参加者16人・21人 ・対蔵山いきいきクラブ 9/19 参加者20人 ・百歳体操まるくる 9/25 参加者23人 ・さわやか会 9/27 参加者29人 ・まちの保健室 10/5 参加者76人 ・鯛山塾 10/8 参加者21人 ・ふれあいミニサロン 10/17 参加者20人 ・健康フェスタ 10/24 参加者延137人 ・歯ッピーカムカム講座&クッキング 11/12 参加者10人 ・トークサロン 11/28 参加者11人 ・フレイル予防クッキングレッツチャレンジ編 12/2 参加者7人 ・物見東サロン 12/2 参加者16人 ・みんなのサロン 12/3 参加者18人 ・2区けんこう体操 12/25 参加者25人 ・元氣クラブA 3/2 参加者18人、元氣クラブB 3/2 参加者10人 ○健康を守る集いでの啓発活動(大) ・3/8 まるくるフェス同時開催 参加者延1,657人 ○ウオーキング講習会給食の部会コラボ「運動と食」(大) ・10/31日 参加者17人 ○食生活改善推進員連絡協議会事業(吉) ・ミニ伝達講習会(交流ウオーキング・認知症カフェ等) ・伝達講習会(あつまろう家) ・吉和ふれあいフェスタでの試食提供及びやさいの日およびフレイル予防等の普及啓発 ○フレイル予防の指導及び健康教育・訪問等の実施(吉) ○熱中症予防の普及啓発(吉) ・民生委員児童委員定例会や交流ウオーキング・ミニ伝達講習会等で情報提供をおこなった。 ・広報はつかいち折り込み等を通じ情報提供を行っている。 ○健康はつかいち21佐伯地域会(3食食べよう会)事業(佐) ・幼児教室参加者に対する食育の話しを実施。わんぱくKIDS内で開催。母子7名参加。「食育博士えいよう3兄弟」の媒体を用いて食生活改善推進員が講座をした。 ○食生活改善推進員連絡協議会事業(佐) ・やさいの日普及啓発。 ○健診結果説明会での栄養相談の実施(佐) すこやか健康塾4回 ○健康はつかいち21推進協議会事業(宮) ・食の部会にて高齢者への食事提供として、11月18日に食事会を実施し、高齢者29人が参加した。 ・8月1日の「地域ふれあいフェスタ」にて、野菜の日の普及啓発のポスター掲示とチラシ配布を行った。 ○健康相談を島内2カ所の市民センターで毎月実施した。延べ148人が参加した。健康相談後のミニ講座にて、熱中症予防やたんばく質摂取の健康教育を実施した。毎回、一体的実施の専従栄養士が同行するため、定期的に栄養相談を実施(宮) ○7月1日の健康チェックデーにて栄養士による栄養相談、減塩リーフレットの配布、明治安田生命によるベジチェックを実施(宮) ○高齢者の低栄養予防指導を2人実施(宮) ○高齢者のサロンにて、たんばく質がとれる簡単おやつ作りを年間2回実施(宮) ○「からだ若返り教室ハートボックス」にて、年間2回栄養のミニ講座を実施(宮)	○健診結果説明会における個別栄養相談(大) ・栄養士3名で対応したため待ち時間も短くできた。会場にフードモデルを設置し、参観者は待ち時間に見ることができた。西部保健所が作成した「塩分チェック表」を使用。参加者から「自身の塩分量が分かった」と自身のこととして振り返ることができた。LINEやHPで周知したことで、申込み枠は直ぐに埋まった。キャンセル待ちもあった。しかし、体調不良や当日欠席等で当初の定員より少なくなった。 ○高齢者の低栄養予防指導及び健康教室(大) ・R5年度から大野地域では一体的事業を開始。当初は顔を覚えてもらい、現在は少しずつサロン等で栄養指導や健康相談を実施できている。市民センターと共催で実施することもできている。固定のサロンなどで実施しているため、新規開拓も必要。 ○ウオーキング講習会と食の部会コラボ「運動と食」(大) ・R6年度からコラボ開始。ウオーキング後に摂取すると効果的な飲み物を提供することで参加者から好評をいただいている。レシピを提供し、自宅でも簡単に作れるようになっている。 ○健康を守る集いでの啓発活動(大) ・R5年度よりまるくるフェスと同時開催で、多世代の市民の健康づくりの普及啓発を実施している。 ○食生活改善推進員連絡協議会事業(吉) ・担い手の後継者不足 ・地域の人が誘うことにより参加する人も多い。 ・まわりに迷惑をかけたくない思いがあり伝達講習会へ参加する人が減っている ○フレイル予防の指導及び健康教育・訪問等の実施(吉) ・一般介護予防教室や座談会や広報おこみ等を利用して啓発活動をしているが、疾病や施設入所などにより参加者が減っているが、筋力低下を理由に新規に参加する人もいる。 ・講座に参加する人は同じ人が参加することが多く同じパンフレット内容話しくい。 ○熱中症予防の普及啓発(交流ウオーキング・ミニ伝達講習会等)(吉) ・畑仕事などのときにペットボトルなどに水を入れて外出しているという声を聞くことが以前と比較して増加している。 ・健康相談については、少しずつ、参加者も増えてきた。課題としては、参加者の固定化があるため、新規の参加者を増やすことが課題である。 ・地域ふれあいフェスタでは、子育て世代も多く参加される。職員はイベント開催の手伝いに参加するため、ブースを設けることは難しい。引き続き、ポスター掲示やチラシで今後も継続して啓発をしていく。 ・食を推進する会と協力しながら、事業を実施しているものあり、今後も連携していく。	○健診結果説明会における個別栄養相談(大) ・健康相談会の実施 ○高齢者の低栄養指導及び健康教室(大) ・昨年度同様のサロンや市民センター等で実施 ・新規サロン、まるくるフィッタ、べにまんさくの湯と実施 ○ウオーキング講習会と食の部会コラボ「運動と食」(大) ・ウオーキング講習会と食の部会コラボの実施 ○健康を守る集いでの啓発活動(大) ○食生活改善推進員連絡協議会事業(吉) ・伝達講習会(交流ウオーキング・認知症カフェ等) ・よしわふれあいフェスタでの試食提供及びやさいの日およびフレイル予防等の普及啓発 ○フレイル予防の指導及び健康教育・訪問等の実施(吉) ○熱中症予防の普及啓発(吉) ・各行事や各機関を通じて熱中症予防の普及啓発 ○健康はつかいち21推進協議会事業(宮) ・食の部会にて高齢者への食事提供 ○健康相談・健康チェックデーにて栄養士による栄養相談(宮) ○年1回運動指導士による運動教室「からだ若返り教室」で減塩についての健康教育を実施する。(宮) ○高齢者の低栄養予防指導及び健康教育(宮)	各支所
			○高齢者低栄養予防指導及び健康教育の実施	○高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施で、低栄養のリスクのある人に対して、栄養士等から栄養指導を実施した。 ○通いの場やサロン、商業施設等でフレイル予防講座を実施した。	○フレイル予防の普及啓発のため、商業施設での講座を実施し、より多くの方に周知ができるようになった。	○高齢者低栄養予防指導及び健康教育の実施	地域共生社会推進室
身体活動・運動	①ウオーキングの推進 ②ライフステージに応じた運動やスポーツの促進 ③運動やスポーツを実践・継続できる環境づくりの推進	P87～88	○健康はつかいち21推進協議会事業 ・ウオーキングカード事業の実施 ・ニュースポーツ体験の実施(あいプラザまつり) ○健康運動指導士による健康教室(ハートボックス)の実施	○ウオーキングカード達成者は、32名。達成者には景品として、ゴミ袋の配布、希望者には、表彰状の配布と広報への掲載を実施した。 ○ニュースポーツ体験は、モルック、ネットネット、ラダーゲッターの3種目を実施。参加者数は505人。運動身体活動委員、スポーツ推進員、ウオーキングリーダーが協力して運営した。 ○ハートボックスは、9月から2月の計6回実施。参加延人数192人、参加実人数40人。3月には、振り返りの会を実施。	○達成者に対する景品・表彰状の配布、広報への掲載は、ウオーキング継続や新たに始めるきっかけとなると考える。 ○運動委身体活動推進委員、スポーツ推進員、ウオーキングリーダーの3者が連携しながら実施することができた。親子連れを中心に幅広い世代に対し、体を動かすことの楽しさを伝えることができた。 ○最終回のアンケートでは、満足度が高く、教室参加前後で行動変容があった方が多くいたため、参加者にとって効果的な教室が実施できたと考え。一方、リピーターが多く、その効果が限定的になっていること、運動習慣者が少ない働く世代へのアプローチも必要といった課題があり、見直しが必要である。	○ウオーキングカード事業の実施 ○あいプラザまつりでの運動やスポーツの啓発 ○生活習慣予防教室の実施と令和9年度以降の運動を含めた教室等の検討	健康推進課

分野	施策	計画掲載ページ	R7年度 事業計画	R7年度 実施状況	R7年度 課題・評価	R8年度 事業計画	担当課
身体活動・運動	①ウォーキングの推進 ②ライフステージに応じた運動やスポーツの促進 ③運動やスポーツを実践・継続できる環境づくりの推進	P87～88	○ウォーキングリーダーの養成、育成 ○ピースウォークへの協力 ○各地区ごとに交流ウォーキングを実施	○ウォーキングリーダー養成講座を実施し、14名が修了した。 ○連絡会・交流会年3回を実施した。また、ウォーキングリーダー会理事会を継続実施した。 ○ウォーキングリーダー会が主体となって宮島ウォーキング大会を実施した。 ○交流ウォーキングを計45回開催し、約839名が参加した。(廿日市地域)	○リーダー会の組織に係を設け、各地区での活動について、自主的な活動を増やし、主体的に健康づくりに取り組めるよう支援しているが、役割が集中しており活動に偏りが出ている。 ○宮島ウォーキング大会を主催となって実施することができているため、今後もリーダー主体で活動できるように支援していく必要がある。 ○高齢化や気候の変動に伴い、参加者は減少傾向にある。室内でのウォーキング活動や多世代が交流できるような機会を創出できるように支援していく必要がある。	○ウォーキングリーダーの育成 ○各地区ごとに交流ウォーキングを実施	地域共生社会推進室
			○R6に引き続き、R7も継続実施予定 実施に当たっては、スポーツ推進委員協議会や指定管理者と連携し、参加者の競技をサポートするなど、安心してスポーツを楽しんでもらえるよう取組む。	○スポーツ推進委員と連携し、ウォーキング促進に取り組んだ。 ○市民の興味を惹かれるような運動や講演や、障がいのある方も参加できるイベント等を実施し、運動を始めるきっかけづくりを行った。	○スポーツ推進委員と連携し、ウォーキング促進に取り組んだ。 ・ピースウォークひろしまツデーイン廿日市の実施(11/22・23) ○市民の興味を惹かれるような運動や講演や、障がいのある方も参加できるイベント等を実施し、運動を始めるきっかけづくりを行った。 ・「みんなのスポーツ体験会」を毎月1回、臨時で1回、計13回実施し、延べ370名の参加があった。 ・「あすチャレ！運動会」を実施し、81人の参加があった。 ・「インクルーシブ・スポーツ・フェスタ広島2025」では、メイン会場に3,254名が来場し、障がいのある無にかかわらずスポーツを通じた交流や理解促進を図る機会となった。	○スポーツ推進委員と連携し、ウォーキング促進及びニュースポーツ体験会の開催に取り組む ○市民の興味を惹かれるような運動や講演や、障がいのある方も参加できるイベント等を実施し、運動を始めるきっかけづくりを行う。 ○トップアスリートふれあい事業を実施し、こどもの運動機会の創出に取り組む	スポーツ推進課
			○高齢者の健康づくり推進部会事業(大) ・交流ウォーキングの実施 ・ウォーキング講習会と食のコラボ実施 ・ウォーキング大会の実施 ○運動と健康づくり推進部会事業(大) ・体力測定と体成分測定の実施 ・体力測定(健康を守る集い) ○ウォーキングリーダーとの連携(吉) ・交流ウォーキングの実施 ○スポーツ推進協議会吉和地域連盟との連携(吉) ・吉和ウォーキングの開催の協力 ○フレイル予防の指導及び健康教育の実施(吉) ・まめで活き活き元気教室の実施 ・あつまろう家や老人クラブ等のイベントでのミニ講座の実施 ○健康はつかいち21佐伯地域(にこにこ会)事業(佐) ・各地区のにこにこ会行事(ウォーキングや世代交流など) ○健康はつかいち21佐伯地域(かえる部会)事業(佐) ・11月21日「はつはつ体操」に関する研修会 ○健康はつかいち21推進協議会事業(宮) ・運動部会にて、年に1回ウォーキングを実施 ・運動指導士による毎月1回の運動教室を実施	○高齢者の健康づくり推進部会事業(大) ・交流ウォーキングの実施(6回実施、計81人参加) ・ウォーキング講習会と食のコラボ実施(10/31、17人参加) ・ウォーキング大会の実施(3/8、58人参加) ○運動と健康づくり推進部会事業(大) ・体力測定と体成分測定の実施(6/1、23人参加) ・体力測定(健康を守る集い)(3/8、129人参加) ○ウォーキングリーダーとの連携(吉) ・交流ウォーキングの実施 ○スポーツ推進協議会吉和地域連盟との連携(吉) ・吉和ウォーキングの開催の協力(荒天予想のため中止) ○フレイル予防の指導及び健康教育の実施(吉) ・まめで活き活き元気教室の実施 ・あつまろう家等のイベントでのミニ講座の実施 ○健康はつかいち21佐伯地域(にこにこ会)事業(佐) ・各地区のにこにこ会行事(ウォーキングや世代交流など) ○健康はつかいち21佐伯地域(かえる部会)事業(佐) ・「はつはつ体操」に関する研修会 ○健康はつかいち21推進協議会事業(宮) ・運動部会にて、10月29日大野地域にて1回ウォーキングを実施した。 ○介護予防の運動教室を実施(宮) ・運動指導士による運動中心の運動教室「ハートボックス」を年間11回実施した。 ・運動指導士による座学を中心とした「ハツラツ元気塾」を年間5回実施した。	○高齢者の健康づくり推進部会事業(大) ・周知方法について、ホームページやSNS等を活用し、幅広い世代へ広く周知する。また、ウォーキングリーダーや食生活と歯の健康づくり推進部会等の関係機関と連携し、ウォーキングの推進を行う。 ○運動と健康づくり推進部会事業(大) ・毎年6月の第1日曜日に開催している体力測定について、65歳以上の参加が7割を占めており、働く世代や若い世代の参加が少ない。そのため、働く世代と子どもが気軽に参加できるよう、ニュースポーツ体験をきっかけに運動習慣の啓発や健康チェックを行うイベントを実施する。 ○ウォーキングリーダーとの連携(吉) ・高齢化に伴い担い手が減っている ○フレイル予防の指導及び健康教育の実施(吉) ・参加者の減少。施設入所、認知症などによる介護保険の通所サービス利用、体調不良により今まで参加されていた方の参加が減っているが、新たに身体のことを考え参加を検討されている人もいる。 ○食生活改善推進員の活動が地域に根付いており、他事業とのコラボをすることで広く市民に啓発できる(佐) ・参加者の固定化や高齢化が考えられる。介護予防教室については、ハートボックスとハツラツ元気塾の参加者がほぼ同じであり、講師も一緒のため、令和8年度より、統合して、「からだ若返り教室」として運動教室を実施する。	○高齢者の健康づくり推進部会事業(大) ・交流ウォーキングの実施 ・ウォーキング講習会の実施 ・ウォーキング大会の実施 ○運動と健康づくり推進部会事業(大) ・ニュースポーツ体験と健康チェックの実施 ・体力測定(健康を守る集い) ○ウォーキングリーダーとの連携(吉) ・交流ウォーキングの実施 ○スポーツ推進協議会吉和地域連盟との連携(吉) ・吉和ウォーキングの開催の協力 ○フレイル予防の指導及び健康教育の実施(吉) ・まめで活き活き元気教室の実施 ・あつまろう家や老人クラブ等のイベントでのミニ講座の実施 ○食生活改善推進員連絡協議会事業(佐) ・やさいの日普及啓発 ・地域のサロンなどで伝達講習会のコラボ ○健診結果説明会での栄養相談の実施(佐) ○健康はつかいち21推進協議会事業(宮) ・運動部会にて、年に1回ウォーキングを実施 ○介護予防の運動教室を実施(宮) ・運動指導士による毎月1回の運動教室「からだ若返り教室」を実施	各支所
睡眠・休養・こころの健康	①睡眠・休養・こころの健康に関する啓発の推進 ②相談しやすい環境づくり ③気づき、見守り、つなげる体制の推進	P89～90	○ゲートキーパー養成講座の実施 ○相談窓口カードの配布 ○廿日市市自殺対策推進本部会議の実施 ○こころの健康づくり委員会の実施及び連携 ○心の健康に関する(産後うつ病の予防及び相談窓口)のリーフレット配布 ○二十歳のつどいでメンタルヘルスに関するリーフレットを配布 ○自殺予防週間、自殺対策強化月間にあわせた啓発(ポスターを掲示・図書館での展示)	○ゲートキーパー養成講座実施(全2回、延183人) ○相談窓口カードの配付(10,744枚) ○廿日市市自殺対策推進本部会議実施(1回、10/6) ○こころの健康づくり委員会実施(1回目:8/5、2回目:10/9) ○心の健康に関する(産後うつ病の予防及び相談窓口)のリーフレット配布 ○二十歳のつどいでメンタルヘルスに関するリーフレットと相談窓口カードを配布(900部) ○自殺予防週間、自殺対策強化月間にあわせた啓発(ポスター掲示、9月はつかいち市民図書館、3月おの市民図書館にて啓発資料等の展示) ○広島県労働基準協会廿日支部主催の全国労働衛生週間説明会(令和7年9月5日)において、本市の健康づくりの取組や相談窓口カードを配布し周知啓発を行った。 ○廿日市市自殺対策計画「いのちを支える廿日市プラン」(第3次)の策定(第4期廿日市市地域福祉計画に包含)	○民生委員と看護学生を対象に実施 ○令和7年度には相談窓口カードの増刷を行い、様々な機会を通じてカードの配布や設置を積極的に行うことができた。 ○自殺対策推進本部会議(庁内ネットワーク)とこころの健康づくり委員会(庁外ネットワーク)の実施により、関係機関・団体等と連携した全市的な計画の推進を図ることができている。また、廿日市市自殺対策計画(第3次)にむけて意見交換ができた。 ○二十歳のつどいで実施したリーフレット配布は、環境の変化や将来への不安からメンタル不調を抱える可能性の高い年代に対して啓発する機会であり、効果的だと考える。 ○多くの市民が利用する市民図書館での展示は自殺予防の普及啓発に効果的だと考える。 ○労働衛生週間説明会において、広島県、大竹市、本市が連携し、企業へ、本市のこころの健康づくりに対する周知や相談窓口の周知ができた。	○ゲートキーパー養成講座の実施 ○相談窓口カードの配布 ○廿日市市自殺対策推進本部会議の実施 ○こころの健康づくり委員会の実施及び連携 ○心の健康に関する(産後うつ病の予防及び相談窓口)のリーフレット配布 ○二十歳のつどいでメンタルヘルスに関するリーフレットを配布 ○自殺予防週間、自殺対策強化月間にあわせた啓発(ポスターを掲示・図書館での展示)	健康推進課
			○親子(母子)健康手帳交付時の産後うつ予防に関する啓発の実施	○親子(母子)健康手帳交付時にパンフレットを使用して、産後うつについて説明した。	○親子(母子)健康手帳交付時にパンフレットを使用して、産後うつについて説明することができた。	○親子(母子)健康手帳交付時の産後うつ予防に関する啓発の実施	子育て応援室
			○精神保健福祉講座の実施により障害の理解を深める ○相談窓口の周知 ○はつかいち福祉ねつとの会議や部会に参加し、地域課題の解決や情報共有を図る	○精神保健福祉講座実施(全1回、参加者32人(会場:14人、オンライン:18人)) ○はつかいち福祉ねつとのこども・発達支援部会作成の「ポジティブライフガイド」や県のチラシを機会を通じて配布 ○はつかいち福祉ねつとでは、部会代表者会議、障がい別会議、課題別会議が開催され、様々な取組を実施	○評価講座後のアンケートより、参加者100%が「理解できた」「概ね理解できた」と回答 ○課題引き続き、ニーズの高いテーマについて講座を行う必要性がある	○精神保健福祉講座の実施により障害の理解を深める ○相談窓口の周知 ○はつかいち福祉ねつとの会議や部会に参加し、地域課題の解決や情報共有を図る	障害福祉課

分野	施策	計画掲載ページ	R7年度 事業計画	R7年度 実施状況	R7年度 課題・評価	R8年度 事業計画	担当課
歯・口腔	①ライフステージに応じた歯・口腔の健康づくりの推進 ②定期的な歯科健診受診の促進	P95～96	○虫歯予防デーと歯と口の健康習慣に合わせて、6月に園児と保護者に歯と口腔の健康づくりについて啓発 ○歯科検診の実施	○虫歯予防デーと歯と口の健康習慣に合わせて、6月に園児と保護者に噛むことの大切さを学ぶ食育を実施した。 ○歯科検診の実施 ・年に2回、歯科点検を実施した。1回目の歯科点検は虫歯予防デー(6月4日)に近日にちて実施。	○噛むことは食べ物を細かくするだけではなく、虫歯の予防や脳や身体の発達に大きく関わることも子どもたちが知り、よく噛んで食べる様子が各園で見られた。	○虫歯予防デーと歯と口の健康習慣に合わせて、6月に園児と保護者に歯と口腔の健康づくりについて啓発 ○歯科検診の実施	こども課
			○学校保健の推進 ○学校歯科医代表と歯科健診前の申合せの実施 ○養護教諭を対象にした歯科保健の研修の実施	○佐伯歯科医師会廿日市支部と学校歯科健康診断(直前)申し合わせ事項の確認を行った。 ○廿日市地区歯科衛生連絡協議会や全国学校歯科保健研究大会に出席し、養護教諭に報告を行った。 ○全国小学生歯みがき大会に参加した学校もあった。	○定期健康診断歯科健診を実施するにあたり、佐伯歯科医師会廿日市支部との申し合わせ事項を養護教諭にも確認を行い円滑な健診を行うことができた。 ○全国学校歯科保健研究大会に参加したことで、児童生徒の歯科状況や課題について養護教諭に情報共有ができた。 ○児童生徒の歯科状況の課題を明らかにし、関係機関と連携しながら取り組むことが大切である。	○学校保健の推進 ○学校歯科医代表と歯科健診前の申合せの実施 ○養護教諭を対象にした歯科保健の研修の実施	学校教育課
			○食と歯の健康づくり推進部会事業(大) ・夏休みこどもクッキング ・親子みそづくり教室 ○健康を守る集いで歯科健診・ブラッシング指導・むし歯リスクチェック(大) ○歯・口腔に関するミニ講座の実施(大) ○育児サークルへ出前歯科講座(大) ○歯・口腔の健康づくりに関するミニ講座等の実施(吉) ・すこやかプラザまつりやあつまろう家、老人クラブ等のイベントを通じて、歯・口腔の健康づくりに 関する知識の普及啓発の実施 ・まめで活き活き元気教室の実施 ○佐伯地域内小学校中学校の養護教諭と口腔の健康づくりについて課題と情報共有(佐) ○3歳6ヶ月児健診でのRDテスト実施 (佐) ○健康相談と検診結果説明会での歯科相談実施 (佐) ○健康教室(まめで元気な体操教室・ハートボックス)や健康相談でのオーラルフレイル予防のミニ講座 (佐) ○いきいき百歳体操でのかみかみ体操の普及 (佐) ○健康相談・健康チェックデーにて、歯科衛生士による歯科相談(宮)	○食と歯の健康づくり推進部会事業(大) ・夏休みこどもクッキング 7/30 参加者12人 ・親子みそづくり教室 1/17 参加者16人 ○健康を守る集いで歯科健診、むし歯リスクチェック、ブラッシング指導(3/8、73人参加)(大) ○育児サークル出前歯科講座(9/1、母4人子5人参加(大) ○歯・口腔の健康づくりに関するミニ講座等の実施(吉) ・よしわふれあいフェスタの展示や食推の伝達講習会を通じオーラルフレイルの啓発をおこなった。 ・五師士会主催の「ちょっとひと息医療とふくしの相談室」で歯科についてのミニ講座等を行った。歯科医師や歯科衛生士による個別相談を行った。 ○健康相談にて、年間8回、歯科衛生士による歯科相談を実施した。健康相談後、歯科に関するミニ講座を実施した。(宮) ○健康チェックデーにて、歯科相談を実施した。(宮) ○宮島こども園でのフッ素塗布に、未就園児も一緒に実施するため案内通知を送ったが、令和7年度は希望者はいなかった。(宮) ○市民センターでの百歳体操では、毎回かみかみ体操を実施した。(宮)	○食と歯の健康づくり推進部会事業(大) ・夏休みこどもクッキング 人気企画で直ぐに満員御礼になる。前年度アンケートからメニューを決定したり、子供が一人で作れるレシピとなっている。感想から料理に興味をもつ子供が沢山いる。 ・親子みそづくり教室 人気企画で直ぐに満員御礼になる。みそにカビが生えないように試行錯誤しながら工程を検討している。前年度作成したみそで、当日の豚汁を提供している。 ○育児サークル出前歯科講座(大) 歯科衛生士から0～3歳児の口腔ケアや口腔トレーニング等に関するミニ講座を行った。少人数で和やかな雰囲気ですぐに質問しやすく、参加者の満足度も高かった。引き続き、育児サークルなど乳幼児とその保護者が集まる場への出前歯科講座を実施する。 ○健康を守る集いで歯科コーナーで中高生の参加が少なかった。来年度は若い層にも周知が出来るように検討する。(大) ○歯・口腔の健康づくりに関するミニ講座等の実施(吉) ・以前より、定期的な歯科受診をする人が増加している。(健康チェックなどでの聞き取りにて) ・口腔内の講座は敬遠されがちと思っていたが、五師士会との連携で実施した「ちょっとひと息医療とふくしの相談室」で歯科に関する講座を実施したところ内容に興味を持って参加された人が数名いた。島内に歯科医院がない。歯科相談を定期的に実施する場を提供し、早期に受診勧奨できる環境を提供していく。	○食と歯の健康づくり推進部会事業(大) ・夏休みこどもクッキングの実施 ・親子みそづくり教室の実施 ○育児サークル出前歯科講座(大) ○健康を守る集いで歯科健診、虫歯リスクチェック、ブラッシング指導を実施(大) ○歯・口腔の健康づくりに関するミニ講座等の実施(吉) ・よしわふれあいフェスタやあつまろう家、老人クラブ等のイベントを通じて、歯・口腔の健康づくりに 関する知識の普及啓発の実施 ・まめで活き活き元気教室の実施 ○健康相談・健康チェックデーにて、歯科衛生士による歯科相談(宮)	各支所
			○いきいき百歳体操(通いの場)での歯科衛生士による口腔ケアの講座 ○かみかみ百歳体操の実施 ○介護予防教室での口腔ケアに関する講座を実施	○いきいき体操(通いの場)で歯科衛生士により口腔ケアの講座及び、かみかみ体操を実施(5回/年) ○介護予防教室での口腔ケアに関する講座を実施 リエイブルメント教室:夏、秋、冬教室(各3ヶ月年3回)	○百歳体操や介護予防教室内で口腔体操や講座を実施した事で、高齢者の口腔に対する意識が向上した。又、自宅で簡単にできる口腔体操を普及した事で、自宅内でも口腔機能の改善ができている。限定された面所での普及啓発となっているので幅広く啓発していく必要がある。	○いきいき百歳体操(通いの場)での歯科衛生士による口腔ケアの講座 ○かみかみ百歳体操の実施 ○介護予防教室での口腔ケアに関する講座を実施	高齢介護課
			○生活習慣病予防のための健康教室(ハートボックス等)の開催 ○イベント等での生活習慣病予防の啓発 ○健(検)診受診勧奨はがきの送付、電話勧奨 ○後期高齢者健診受診勧奨のはがきの送付 ○「毎年けんしんサポート」の登録推進 ○受診率向上キャンペーンの実施(佐方地区・宮内地区) ○集団健診の土日実施、託児・レディースデーの実施 ○特定保健指導の利用勧奨(訪問、電話、勧奨通知) ○要精密検査者への受診勧奨(訪問、電話、勧奨通知) ○生活習慣病重症化予防のための保健指導等の実施(健診結果説明会、糖尿病性腎症重症化予防事業) ○U-39健診・保健指導の開始	○生活習慣病予防のための健康教室(ハートボックス等)の開催(ハートボックス:実施回数6回、参加者延べ数192人 ○イベント等での生活習慣病予防の啓発(11月にあいプラザまつり開催) ○健(検)診受診勧奨はがきの送付(健診13,250件、検診43,047件)、検診電話勧奨(11月実施) ○「毎年けんしんサポート」の登録推進(689人) ○受診率向上キャンペーンの実施(佐方地区・宮内地区) ○集団健診(全40回)のうち土日実施(8日間)、託児(4日間)・レディースデー(1日間)の実施 ○受診勧奨・特定保健指導の利用勧奨(訪問118件、電話112件、勧奨通知482件) ○要精密検査者への受診勧奨(訪問1件、電話270件、勧奨通知34件) ○生活習慣病重症化予防のための保健指導等の実施 ・糖尿病性腎症重症化予防事業8人 ・健診結果説明会5回、79人 ○U-39健診(195人)、保健指導(3人)	○ハートボックス(健康教室)での食育と運動を結びつけた講座と実技を実施した。最終回のアンケートでは、満足度が高く、教室参加前後で行動変容があった方が多くいたため、効果的な教室が実施できたと考ええる。。一方、リピーターが多く、その効果が限定的になっていること、運動習慣者が少ない働く世代へのアプローチも必要といった課題があり、見直しが必要である。 ○あいプラザまつりにて、幅広い年代を対象に、測定コーナーや展示を通じて、自身や家族の健康について楽しみながら考えてもらう機会とすることができた。 ○健診についてははがき送付、架電により受診勧奨を行い、特定健診、後期高齢者健診については、受診率の上昇が見られた。。継続した受診につなげるため、引き続き毎年けんしんサポートの登録推進を実施する。 ○保健指導や受診が必要な人に対して、訪問や勧奨、はがきなど様々な方法でアプローチすることができている。 ○要精密検査者へ訪問や電話、通知などにより受診勧奨を行うことで、重症化予防を図ることができている。 ○糖尿病性腎症重症化予防事業より、対象者の健康維持・増進のため、保健指導をすることができた。健診結果説明会での栄養相談を実施した。フードモデルを活用しながらの実施であるため、より対象者に自分の食生活について意識してもらえたと考える。今後も引き続き実施する。 ○21歳から39歳を対象とした健診を実施し、若年世代からの健康意識の向上と健診の習慣化を図った。	○健診後の生活習慣病予防教室の実施。令和9年度以降の生活習慣病予防教室等の検討 ○あいプラザまつりの実施 ○対象に応じた、受診勧奨・特定保健指導利用勧奨の実施 ○要精密検査者への受診勧奨 ○生活習慣病重症化予防のための保健指導等の実施(糖尿病性腎症重症化予防事業、健診結果説明会) ○健(検)診受診勧奨はがきの送付、電話勧奨 ○U-39・後期高齢者(75歳のみ)健診受診勧奨のはがきの送付 ○「毎年けんしんサポート」の登録推進 ○集団健診の土日実施、託児・レディースデーの実施 ○受診率向上キャンペーンの実施(廿日市地区・地御前地区・大野7区)	健康推進課

分野	施策	計画掲載ページ	R7年度 事業計画	R7年度 実施状況	R7年度 課題・評価	R8年度 事業計画	担当課
生活習慣病・がん	①生活習慣病予防の啓発と対策 ②健診・がん検診受診率の向上 ③生活習慣病予備群及び要精密検査対象者等への働きかけの強化	P97～98	○今日から始める運動入門や一体的実施事業など各保健事業で健診の受診勧奨実施(大) ○健診結果説明会での結果説明、相談(大) ○今日からはじめる運動入門の実施(大) ○吉和診療所、健診事業者との連携(吉) ・健診の受診勧奨(広報折り込み等) ・健診の実施 ・生活習慣病予防の啓発(広報折り込み等) ○健康教室(まめで元気な体操教室・ハートビクス)、いきいき百歳体操、健康相談での健診受診勧奨(佐) ○さいきすこやか健康塾での健診結果説明ブースの設置(佐) ○要精密者への医療機関受診勧奨を一体的事業での重症化予防者を含め一体的担当職員と協働で受診勧奨を実施(佐) ○月に2回健康相談(2ヶ所)実施・年1回の健診の受診勧奨実施(宮) ○健康診断・健康チェックデーのチラシを全戸配布(宮)	○今日から始める運動入門や一体的実施事業など各保健事業で健診の受診勧奨実施(大) ・各種事業の中で、チラシ配布やアナウンスで健診受診勧奨実施。 ○健診結果説明会での結果説明、相談(大) ・9/11実施 参加者13人 ・12/18実施 参加者9人 ○今日からはじめる運動入門実施(大) ・9/16、10/14、11/18、12/16、1/20、2/17の全6回開催。参加延人数は209人 ○吉和診療所、健診事業者との連携(吉) ・広報折り込みや来庁者へ健診の受診勧奨 ・健診の実施 ・生活習慣病予防の啓発(広報折り込み等) ○健康相談など保健事業にて、健診の受診勧奨実施した。(宮) ○健康診断・健康チェックデーのチラシを全戸配布した(宮) ○一体的事業での重症化予防事業者への受診勧奨をした(宮) ○健康相談にて健診結果の相談や要精密検査者への受診勧奨を実施した(宮)	○今日から始める運動入門で参加人数が多くスタッフの目が行き届きにいたため、来年度調整する必要がある。また年末を挟み、体組成の結果が悪くなった人もいたので、年末も健康について意識してもらえるように工夫する必要がある。(大) ○健診結果説明会での結果説明、相談(大) - LINEやホームページで周知することで、多くの予約が入った。枠を広げたり対応したが、当日キャンセル(体調不良等)で予定より少なくなった。医師が健診結果等の相談・指導を実施し、参加者から「相談できて良かった」と感想があった。相談だけでなく、血圧測定、体組成測定、ベジチェック、血管年齢測定のヘルスチェックをすることで参加者の満足感も得られていた。 ○今日から始める運動入門や一体的実施事業など各保健事業で健診の受診勧奨実施(大) ・各事業で健診受診勧奨を実施している。 ○吉和診療所、健診事業者との連携(吉) ・吉和診療所の啓発もあり、特定健診の受診率は44%だった(5地域では1位)。 ・吉和診療所へ健診に関する情報共有を実施した。 ・以前は、健診結果説明を兼ねて健康相談を開設していたが、相談者が少なくほとんどが吉和診療所等の医療機関に相談していることが判明したため、随時の個別相談に切り替えた。 ○国保の特定健診対象者は年々減少傾向である。健診も集団健診よりも個別健診や人間ドックの受診のほうが増えた傾向がある。集団健診の受診者は後期高齢者が多くなっている。後期高齢者は健診結果より、一体的予防事業の対象者の抽出に使うため、今後も健診受診者を増やしていく必要がある。健診結果については、健康相談や保健相談など、日頃の事業で、相談や説明をしているため、今後も継続していく。	○今日から始める運動入門の実施(大) ○健診結果説明会での結果説明、相談(大) ・健康相談会の実施 ・まるくるフィット健康運動士に協力してもらい、運動相談ブースの設置 ○今日から始める運動入門や一体的実施事業など各保健事業で健診の受診勧奨実施(大) ○吉和診療所、健診事業者との連携(吉) ・広報折り込みや来庁者へ健診の受診勧奨 ・健診の実施 ・生活習慣病予防の啓発(広報折り込み等) ○月に2回健康相談(2ヶ所)実施・年1回の健診の受診勧奨実施(宮) ○集団健診・健康チェックデーのチラシ(送迎バスの時刻表掲載)を全戸配布(宮) ○健康相談にて健診結果の相談や要精密検査者への受診勧奨実施(宮)	各支所
			○ウオーキングリーダーの養成と育成 ○健康づくり応援団の養成と育成 ○高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施 ○低栄養のリスクがある人を対象とした低栄養予防指導の実施 ○通いの場等での健康教育・健康相談の実施	○ウオーキングリーダー養成講座を実施し、14名が修了した。 ○連絡会・交流会年3回を実施した。また、ウオーキングリーダー会理事会を継続実施した。 ○ウオーキングリーダー会が主体となって宮島ウオーキング大会を実施した。 ○高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施で、低栄養のリスクのある人に対して、栄養士等から栄養指導を実施した。 ○通いの場やサロン、商業施設等でフレイル予防講座を実施した。 ○健康づくり応援団養成講座を実施した。健康づくり応援団のスキルアップを目的とした連絡会を4回実施した。	○リーダー会の組織に係を設け、各地区での活動について、自主的な活動を増やし、主体的に健康づくりに取り組めるよう支援する。それにより、健康づくり活動が継続的に地域で広まっていくことを目指す。今後は、各地域ごとに交流ウオーキング等を実施し、各地域での健康づくりを推進する。 ○フレイル予防の普及啓発のため、商業施設での講座を実施し、より多くの方に周知ができるようになった。 ○健康づくり応援団の活動者の高齢化に伴い、今後も健康づくり応援団の養成後は、地域の活動につなげていく必要がある。	○ウオーキングリーダーの育成 ○高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施 ○低栄養のリスクがある人を対象とした低栄養予防指導の実施 ○通いの場等での健康教育・健康相談の実施 ○健康づくり応援団の養成と育成	
生活機能	フレイルとロコモティブシンドローム予防の推進	P99～100	○高齢者の低栄養予防指導及び健康教育(大) ○商工会・包括とコラボした「まちの保健室」(健康相談)の実施(大) ○健康はつかいち21吉和地域健康推進部会事業(吉) ・介護予防や運動教室への参加の声かけ ○ウオーキングリーダーとの連携(吉) ・交流ウオーキングの実施 ○フレイル予防の指導及び健康教育の実施(吉) ・まめで活き活き元気教室の実施 ・あつまろう家や老人クラブ、伝達講習会等のイベントでのミニ講座の実施 ○健康教室(まめで元気な体操教室・ハートビクス)、いきいき百歳体操、健康相談での健診受診勧奨(佐) ○さいきすこやか健康塾での健診結果説明ブースの設置(佐) ○要精密者への医療機関受診勧奨を一体的事業での重症化予防者を含め一体的担当職員と協働で受診勧奨を実施(佐) ○健康教室(フレイルに勝つ・ハートビクス)や健康相談への参加勧奨(佐) ○出前講座実施(包括さいき協働)(佐) ○一体的事業訪問者に対し、これらの教室等に参加を促す(佐) ○いきいき百歳体操参加勧奨、サロン立ち上げ時の相談や体操などの提供(包括さいき協働)(佐) ○月に2回健康相談実施(宮) ○健康教室(ハートビクス、ハツラツ元気塾)や健康相談への参加勧奨(宮)	○高齢者の低栄養予防指導及び健康教育の実施(大) ○商工会・包括とコラボした「まちの保健室」(健康相談)の実施(大) ・まちの保健室 6/13・10/5・12/15 参加者14人・76人・39人 ○健康はつかいち21吉和地域健康推進部会事業 ・介護予防や運動教室、百歳体操フォロー教室への参加の声かけ ○ウオーキングリーダーとの連携 ・交流ウオーキングの実施 ○フレイル予防の指導及び健康教育の実施 ・まめで活き活き元気教室の実施 ・あつまろう家や伝達講習会等のイベントでのミニ講座の実施 ○高齢者のサロンにてたんばく質がとれる簡単おやつ作りを年間2回実施(宮) ○介護予防教室である「まめでいきいき元気教室」でフレイル予防の指運動指導を行った。(宮) ○月に2回健康相談を実施し、低栄養予防やフレイル予防についての健康教育を実施(宮) ○健康教室(ハートビクス、ハツラツ元気塾)や健康相談への参加勧奨を実施した。包括やプランチなど必要機関にチラシ配布をして必要な人への声かけを実施(宮) ○健康チェックデーにて、骨密度測定、脳年齢測定、血管年齢測定の実施、歯科相談、栄養相談を実施(宮) ○高齢者の低栄養予防指導を2人実施(宮)	○高齢者の低栄養予防指導及び健康教育(大) ○商工会・包括とコラボした「まちの保健室」(健康相談)の実施(大) ・R5年度から大野地域では一体的事業を開始。当初は顔を覚えてもらい、現在は少しずつサロン等で栄養指導や健康相談を実施できている。市民センターと共催で実施することもできている。固定のサロンなどで実施しているため、新規開拓も必要。 ・参加者からは前向きな発言等も出ており、参観者同士での繋がりもできている。 ○健康はつかいち21吉和地域健康推進部会事業(吉) ○ウオーキングリーダーとの連携(吉) ・担い手の後継者不足 ・地域の人が誘うことにより参加する人も多い。 ・まわりに迷惑をかけたくない思いがあり伝達講習会へ参加する人が減っている ○フレイル予防の指導及び健康教育・訪問等の実施(吉) ・一般介護予防教室や座談会や広報おりこみ等を利用して啓発活動をしているが、疾病や施設入所などにより参加者が減っているが、筋力低下を理由に新規に参加する人もいる。 ・講座に参加する人は同じ人が参加することが多く方法や内容について検討が必要 ・健康相談や健康教室にて、フレイル予防の健康教育を実施している。いろんな事業で、フレイル予防の普及啓発をしているが、繰り返し伝えていくことで、対象者が理解して、行動に実践することができると考える。年1回、骨密度測定を実施することで、昨年度との比較をしてもらい、必要時、栄養相談も実施していく。	○高齢者の低栄養予防指導及び健康指導(大) ○商工会・包括とコラボした「まちの保健室」や症状施設での健康相談の実施(大) ○健康はつかいち21吉和地域健康推進部会事業(吉) ・介護予防や運動教室への参加の声かけ ○ウオーキングリーダーとの連携(吉) ・交流ウオーキングの実施 ○フレイル予防の指導及び健康教育の実施(吉) ・まめで活き活き元気教室の実施 ・あつまろう家や老人クラブ、伝達講習会等のイベントでのミニ講座の実施 ○月に2回健康相談実施(宮) ○健康教室(からだ若返り教室、ハツラツ元気塾)や健康相談、まめでいきいき元気教室への参加勧奨(宮) ○健康チェックデーにて骨密度測定、脳年齢測定、栄養相談、歯科相談を実施する(宮)	各支所
			○いきいき百歳体操等の通いの場の活動支援 ○フレイル予防のための介護予防教室の開催	○通い場97カ所(新規5カ所) ○介護予防教室や通いの場において、フレイル予防についての講義を実施。	○通いの場が新たに5カ所立ち上がり、高齢者が週1回通える場が増えた事により、参加する高齢者が増え、体操や運動により身体機能の維持・向上及び、外出や人との交流が増えることでフレイル予防につながっている。地域の中には、通いの場が立ち上がっていない箇所があるため、地域の中のつながりや見守り等を把握する為にも設置箇所数を増やしていく必要がある。	○いきいき百歳体操等の通いの場の活動支援 ○フレイル予防のための介護予防教室の開催	
							高齢介護課

分野	施策	計画掲載ページ	R7年度 事業計画	R7年度 実施状況	R7年度 課題・評価	R8年度 事業計画	担当課
社会とのつながり・健康づくりのための基盤整備	①地域活動への参加の促進 ②地域での健康づくり活動の推進 ③地域での見守りや相談体制の充実 ④企業・団体と連携した健康づくりの推進 ⑤健康に関する情報を取得しやすい環境整備	P101～102	○食生活改善推進委員の育成や支援 ○健康はつかいち21推進協議会との連携 ○スポーツ推進協議会との連携 ○働く世代に向けた健康かわら版の発行 ○市民に向けたはっちゃん通信の発行 ○県や市と包括連携協定を結んでいる企業と連携した取組 ・がん検診の周知 ・ウォーキングポイント事業 ・ベジチェックなどのヘルスチェック ・朝食コンテスト展示 ○市ホームページ、LINE、デジタルサイネージを活用した啓発	○食生活改善推進員研修会各地区4回実施(会員69人) ○運動身体活動推進委員会の委員とスポーツ推進委員が協力し、あいプラザまつり ニュースポーツ体験コーナーの実施した(参加者505人) ○働く世代に向けた健康かわら版の発行(商工会メールマガジン) ○市民に向けたはっちゃん通信の発行(3,000部) ○県や市と包括連携協定を結んでいる企業と連携した取組 ・がん検診の周知(アンケートの実施) ・ウォーキングポイント事業(112人参加) ・ベジチェックなどのヘルスチェック(261人) ・朝食コンテストの展示 (あいプラザ、各支所、各市民センター、商業施設、市内小学校) ○市ホームページ、LINE、デジタルサイネージを活用した啓発	○地域単位で栄養・食生活対策を広める食生活改善推進員の会員の増加に向けた取組が必要。市の課題を廿日市、佐伯、吉和3支部で共有し、さらなる事業の展開が必要。また、宮島での継続した食育活動の支援や大野地域での健康おおの21等と連携した食育の推進を図る必要がある。 ○スポーツ推進委員と協力しながら、スポーツの楽しさを普及することができた。 ○働く世代や市民に向けた健康づくりに関する情報を発信しているが、特に働く世代に向けた効果的で分かりやすい啓発をSNSの活用を含めて工夫する必要がある。 ○包括連携協定を結んでいる企業と様々な取組を実施することができた。令和7年度は、新たに朝食コンテストの展示を商業施設で実施することができ、企業との連携により取組が広がっている。	○食生活改善推進員研修会各地区4回実施 ○あいプラザまつりでの運動やスポーツの啓発 ○働く世代に向けた健康かわら版の発行 ○市民に向けたはっちゃん通信の発行 ○県や市と包括連携協定を結んでいる企業と連携した取組 ・がん検診の周知 ・ベジチェックなどのヘルスチェック ・健康イベントの実施 ○市ホームページ、LINE、デジタルサイネージを活用した啓発	健康推進課
			○主任児童委員との連携 ○はっっこ手帳での妊娠期から子育て期に関する情報の配信	○毎月第3火曜日の主任児童委員の会議に出席し、情報交換を行った。 ○はっっこ手帳に、産前産後サポートセンターのイベントや、子育て支援センターのイベント等、随時掲載した。	○毎月第3火曜日の主任児童委員の会議に出席し、情報交換を行うことができた。 ○はっっこ手帳に、産前産後サポートセンターのイベントや、子育て支援センターのイベント等、随時掲載することができた。	○主任児童委員との連携 ○はっっこ手帳での妊娠期から子育て期に関する情報の配信	子育て応援室
			【各市民センター】 ○市民センター主催や共催(地域自治組織が主体)でウォーキング、健康体操やサロンなどを実施 ○地域の医療機関等と連携して講座を実施 ○市民センターだよりに市の健診情報を掲載	【各市民センター】 ○市民センター主催や共催(地域自治組織が主体)でウォーキング、健康体操やサロンなどを実施 (29事業8、376人参加) ○地域の医療機関と連携して講座を実施 ○市民センターだよりに市の健診情報を掲載	○市民センターにおいて、健康体操やサロンなどの事業では、参加者自身が自ら健康づくりに取り組むことを推進する講座が多く行われた。幅広い年齢層で行われており、特に高齢者向けの講座が多い。健康増進を目的とした事業と比較して、地域の医療機関と連携した出前講座等は、少ない。	【各市民センター】 ○市民センター主催や共催(地域自治組織が主体)でウォーキング、健康体操やサロンなどを実施 ○地域の医療機関等と連携して講座を実施 ○市民センターだよりに市の健診情報を掲載	地域振興課
			○健康おおの21推進委員会の活動支援(大) ○母子保健推進員の活動支援(大) ○廿日市市多世代活動交流センターまるくる大野との連携(大) ○健康はつかいち21吉和地域健康推進部会の構成メンバー(ウォーキングリーダー、老人クラブ、民生委員児童委員、食生活改善推進員、スポーツ推進協議会、社会福祉協議会、ふれあい交流センター)等と連携しながら事業の実施(吉) ○認知症カフェ事業の包括さいき・各会場世話人との協働(打ち合わせ・運営スタッフなど)(佐) ○食推・保健運動委員による地域活動の支援(佐) ○食推・保険運動委員・サロン世話人の合同研修会の実施(社会福祉協議会との協働)(佐) ○一体的事業訪問や健康相談などでの情報(元気シートなど)を包括さいきと共有(佐) ○市民センターで実施している100歳体操と連携して健康相談を実施(宮)	○健康おおの21推進委員会の活動支援(大) ・合同会議 5/22 参加者9人 ・合同研修会 11/27 参加者11人 ○母子保健推進員の活動支援(大) ・研修会12回実施 延参加者264人 ・おおの子育て支援センターおたのしみ会参加 9/25 参加者37組 ○廿日市市多世代活動交流センターまるくる大野との連携(大) ・おおの子育てネットワーク会議実施(7/25) ○健康はつかいち21吉和地域健康推進部会の構成メンバー(ウォーキングリーダー、老人クラブ、民生委員児童委員、食生活改善推進員、スポーツ推進協議会、社会福祉協議会、ふれあい交流センター)等と連携しながら事業の実施をした(吉) ○健康はつかいち21推進協議会との連携(宮) ○宮島の食を推進する会・社会福祉協議会との連携(宮) ・社協が実施する給食サービスにて、熱中症予防や健診受診勧奨や保健事業の案内などを実施した。 ○地域ケア会議にて、ランチや包括おおの、社協、民生委員と連携(宮) ・介護予防教室について、情報提供などを行い、必要な人への参加勧奨を実施した。 ○市民センターで実施している百歳体操と連携して健康相談を実施(宮)	○母子保健推進員の活動支援(大) 月1回、研修会を実施し、連携して地域の母子保健活動に取り組んだ。 ○廿日市市多世代活動交流センターまるくる大野との連携(大) ・子育ておおの子育てネットワーク会議を実施し、子育て支援センター、コスモス、母子保健推進員、市民センター等が参加し、関係機関の活動内容や課題について情報共有、検討した。 ○健康おおの21推進委員会の活動支援(大) ・健康おおの21の活動報告を実施。研修会では、廿日市高齢者ケアセンター小野施設長より「認知症を知らう！～全ての人が住み慣れた地域で生活できるまち～」をテーマに講演。参加者同士で学びを深めた。 ○人口が少ない中、関係機関のメンバーを調整するためメンバーが重複することがある。今後も関係機関と連携して事業を進めていく。(吉)	○母子保健推進員の活動支援(大) ○廿日市市多世代活動交流センターまるくる大野との連携(大) ○健康おおの21推進委員会の活動支援(大) ○健康はつかいち21吉和地域健康推進部会の構成メンバー(ウォーキングリーダー、老人クラブ、民生委員児童委員、食生活改善推進員、スポーツ推進協議会、社会福祉協議会、ふれあい交流センター)等と連携しながら事業の実施をする(吉) ○認知症カフェを関係機関と協力しながら実施する(社会福祉協議会、さいきせせらぎ園、地域包括支援センターさいき、吉和支所) ○健康はつかいち21推進協議会との連携(宮) ○宮島の食を推進する会・社会福祉協議会との連携(宮) ○市民センターで実施している百歳体操と連携して健康相談を実施(宮)	各支所
			○若返り部会を開催 ○各地区ごとに交流ウォーキングを実施 ○重層的支援体制整備事業(地域づくりの支援)の推進 ○ウォーキングリーダー、健康づくり応援団の要請・育成と支援	○前年度の振り返りや運動・身体活動の現状について、若返り部会を開催した。 ○交流ウォーキングを計45回開催し、約839名が参加した。(廿日市地域) ○ウォーキングリーダーの育成支援 ・ウォーキングリーダー理事会(11回実施) ・ウォーキングリーダー連絡会(2回実施、延40人)	○高齢化により、担い手不足であることが課題として挙げられた。また、部会員の中に仕事のため、部会に参加できず十分な情報共有や検討ができていない。 ○高齢化や気候の変動に伴い、参加者は減少傾向にある。室内でのウォーキング活動や多世代が交流できるような機会を創出できるように支援していく必要がある。	○若返り部会を開催 ○各地区ごとに交流ウォーキングを実施 ○ウォーキングリーダーの育成支援 ・ウォーキングリーダー理事会 ・ウォーキングリーダー連絡会	地域共生社会推進室
			○介護予防教室を開催し、地域での健康づくり活動につなげる取組 ○高齢者の社会参加の促進を図るため廿らっプラチナボランティアポイント制度(アプリの活用も含め)の実施 ○いきいき百歳体操等の通いの場の立ち上げ支援	○介護予防教室(リエイブルメント教室)を開催。 ○廿らっプラチナボランティア登録者664人、登録団体数155団体 ○はっぽ登録者数2043人 ○立ち上げ等支援 プレゼンテーション:3回、初回:6回、3ヶ月:5回、6ヶ月:4回、1年:2回、フォロー:6回 ○健康運動指導士による支援:76回	○脳にいいアプリを活用した「はっぽ」を開始した事で、百歳体操の参加者が増加した。アプリ内で、歩数、認知症予防ゲーム、食事の管理ができる事で、介護予防を意欲的に取り組む高齢者が増加した。 「はっぽ」登録者がボランティア活動や世話人として地域の担い手として確保していく必要がある。	○介護予防教室を開催し、地域での健康づくり活動につなげる取組 ○高齢者の社会参加の促進を図るため廿らっプラチナボランティアポイント制度(アプリの活用も含め)の実施 ○いきいき百歳体操等の通いの場の立ち上げ支援	高齢介護課